

東京 IPO 特別コラム

2017年7月11日 Vol.88

前半のIPO相場をレビューする

2017年もはや7月となり株式相場の後半戦がスタートしています。何が起きるか予測できない未来を前に相変わらず山あり谷ありの変動を見せてくれる株式相場は日経平均が2万円前後で推移する中で利益確定売りを消化しながら比較的堅調な推移を辿っていますが年後半は果たしてどうなりますか。

IPO相場も12日のソールドアウト(6553)から後半戦を迎えます。今年のIPO企業数は前半39銘柄となりました。3月に21銘柄が集中しましたが、それぞれにほぼ順調に消化されているようです。ただ、直近の傾向としてはIPO後すぐに調整するケースが増えてきているようで、6月のIPO7銘柄のうち6銘柄の時価が公開初値を下回っている状況です。これは5月が例年通り、IPOがなく、需給タイトの中でIPOした銘柄に人気が集り初値がいずれも公開価格の2倍以上(アンビシャス市場のエコモットは1.5倍)となったことが影響しています。公開前にIPO銘柄を公募で得た投資家は初値で買い増ししてみようかと考えた結果なのかも知れませんが、日経平均2万円時代の到来で余裕のできた資金をIPO銘柄に投じる投資家が増えてくる可能性は否定できません。

そこに待ち受けるIPO相場の特徴は、1) 売り出し株数の少ない銘柄はIPO直後に人気化しやすい一方で過熱気味となって割高な印象が持たれ調整局面に入りやすい。2) IT系の銘柄にはプレミアムがつきやすい。3) 上場時はマザーズ上場銘柄に人気が集まりやすいが、中期では東証2部、1部に上場する割安感のある銘柄の方がパフォーマンスを上げやすい。といった点です。前半の39のIPO銘柄のうち7月10日現在で公開価格の時価が下回っているのはスシロー(3563)やLIXILビバ(3564)の2銘柄。公開初値の時価が下回っているのは現在25銘柄にもなっていますが、これらの中には投資チャンスが待っている銘柄もあると考えられます。どのような銘柄に関心を寄せるべきかは基本的には読者の皆様に判断を委ねますが、本コラムでは株価の位置が穏健でなおかつ業績が底堅いという点からズーム(6694)、AI関連というテーマ性からユーザーローカル(3984)、モノづくりを支援するというビジネスモデルのユニークさからピーバンドットコム(3559)、恋愛マッチングサービス「Omiai」の会員数が伸びてIRにも積極的なネットマーケティング(6175)などに注目しています。いずれも上場時からはやや株価は元気がない状況ですが、何かのきっかけで反転上昇する場面もあろうかと思われれます。

今月から来月にかけては6銘柄のIPOが予定されています。その中にはIoT関連のトランザス(6696)といった興味深い銘柄も含まれており、暑き夏の戦いが予想されます。いよいよ2017年IPO夏の陣も本番を迎えようとしています。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)